

サウジアラビアが再エネ導入目標を下方修正 —今後のソーラー導入計画に不安要因も—

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

サウジアラビアは豊富な太陽光資源を有しながら、ソーラーエネルギーの導入が進んでいなかったが、数年前からようやく計画に本腰を入れ始めた。しかし、政府の再エネ目標や政策は化石燃料の動向や価格に左右されており、今後のソーラー導入計画には不安要因も残る。

サウジアラビアは2012年に、国のエネルギー政策機関 King Abdullah City for Atomic and Renewable Energy (KACARE) のプログラムのもとで、2032年までに発電量に占める「非化石燃料」の割合を最大50%に引き上げる目標を掲げた¹。再生可能エネルギーの導入量は54GWと想定し、そのうちソーラー（太陽熱・太陽光）が41GWと大部分を占めている²。ところが、目標の達成に向けた進展は見られず、計画の実効性を疑問視する声が強まっていた。そうした中で2015年1月、政府は目標の達成年を2040年に延期すると発表した。その後も計画は停滞し、2016年現在、ソーラーエネルギー導入量はわずか12MWほどにとどまっている³。

今年4月、政府は脱石油依存経済を目指す国家成長戦略として「サウジアラビア・ビジョン2030」(Saudi Arabia Vision 2030)⁴を発表し、その中で再エネ導入の“initial target”を9.5GWとする新たな目標を示した。9.5GWの達成期限は明記されなかったが、仮に初期目標であるとしても、現状を考慮すると「2040年までに54GW」という従来目標の達成は困難であり、事実上の下方修正を意味すると思われる。実際、6月に、エネルギー・産業・鉱物資源相に就任したばかりのファリハ（Khalid Al-Falih）氏が公式の場で、2032年の再エネ導入目標を10%に引き下げると発言した⁵。

こうした下方修正の背景には石油の価格変動がある。ファリハ大臣は前述の発表で、「54GWという以前の導入目標は、150ドル/バレル近い石油価格を前提としたものだった」と説明した。

¹ <https://www.kacare.gov.sa/en/FutureEnergy/Pages/vision.aspx>

² 太陽光（PV）が16GW、太陽熱（CSP）が25GWで計41GW、そのほか風力9GW、廃棄物3GW、地熱1GW。

³ <http://desertsolarsaudi-arabia.com/why-saudi-arabia/#>

⁴ http://vision2030.gov.sa/sites/default/files/report/Saudi_Vision2030_EN_0.pdf

⁵ 米Bloombergは、サウジが「再生可能エネルギー」目標を「50%から10%」に引き下げたと報じているが、50%は原子力を含む「非化石燃料」の割合である。再エネのみでは30%程度から10%への引き下げであると思われる。

サウジアラビアのエネルギー政策の基本は、「石油は外貨獲得のために輸出、天然ガスは国内需要のために供給」することである。2012 年に政府が野心的な再エネ導入計画を掲げたのは、輸出用の石油を温存する一方で、国内向けに新たなエネルギー源を確保するための選択肢として、再エネに着目したことによる。しかし、2014 年夏から始まった原油価格の下落により、状況は大きく変化した。2008 年に一時 150 ドル/バレルに迫っていた価格は 2016 年3 月には 30 ドル/バレルと 5 分の 1 にまで下落した⁶。こうした状況から、石油を輸出用に温存することを目的とした再エネ開発の重要性はやや薄れてきている。

その間、国内では近年、人口の増加や都市化に伴い天然ガスの消費量が急増し、需給が逼迫している。そのため、政府はかねてから国内のガス田を開発して生産量を増やす方針を示していた。今年 6 月の声明の中でファリハ大臣は、今後は天然ガスの開発により力を入れ、2032 年までに生産量を 2 倍に増やすことを約束した。天然ガスへのシフトが鮮明になった分、再エネは割りを食った形となる。

再エネ目標の下方修正は、より現実的で実効性ある政策への転換であるとして冷静に捉える見方がある一方で、度重なる変更は政策への信頼性を損なうという指摘もある。国営のサウジアラビア電力公社 (Saudi Electric Company : SEC) は、近く実施するユーティリティ規模太陽光発電プロジェクト (計 100MW) の国際入札に向けて公募を開始した。政府は入札への外国資本の参加を広く呼びかけているが、内外の再エネ企業がこれにどう反応するのか注目される。

(以上)

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp

⁶ 原油価格は最近になって 50 ドル/バレル前後にまで持ち直している。